

としょかんの広場



今年は漱石生誕150年

夏目漱石は1867年（慶応3年）2月9日に現在の東京都新宿区で生まれました。漱石の『ころ』は一説によると「日本で一番売れている小説」といわれています。また、俳人としての活動や教師、イギリスへの留学など、様々な経歴があることでも知られています。

今回はそんな夏目漱石の生誕150周年にちなみ、関連資料をご紹介します。

全集 「漱石の作品を網羅的に読みたい」「あまり有名でない作品も読んでみたい」ならこちら

『定本漱石全集』（岩波書店）

漱石の没後100年にあたる2016年から刊行されている全集です。これまでの全集に新たに発見された俳句や書簡などが追加収録される予定になっています。（全28巻・別巻1巻を予定）

※2017年2月末現在、第3巻まで刊行



『漱石全集』（岩波書店）

1990年代後半に刊行された全集です。『定本漱石全集』の旧版にあたります。（全28巻・別巻1巻）

『定本漱石全集』で未刊行の作品は新規収録作品を除き、こちらでお読みいただけます。

教科書でおなじみの作品 「代表作を読みたい」「もう一度読んでみたい」ならこちら

『吾輩は猫である』

「吾輩は猫である。名前はまだ無い。」という有名な一節で始まる作品です。

「苦沙弥先生」の家に住む猫の視点で先生と先生のもとにやってくる人々の様々な人間模様が描かれます。



『坊っちゃん』

漱石の愛媛での教師経験を基に書かれた作品です。東京育ちの主人公が中学の数学教師として四国の学校に赴任し、そこで出会った個性的な教師や生徒たちとの交流を描きます。



『ころ』

「私」と「先生」の交流を通して、人間の心の複雑さを描いた作品です。『彼岸過迄』『行人』の2作品とあわせて「後期3部作」といわれる代表的な作品でもあります。



夏目漱石関連の本 「漱石や漱石の作品について知りたい」ならこちら

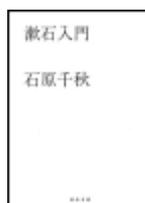
『漱石全集物語』
矢口進也／著 岩波書店／刊

いくつもの出版社から刊行され、いくつもの版が存在する漱石全集。そんな漱石全集について、「全集をつくる側」にスポットを当てたノンフィクションです。



『漱石入門』
石原千秋／著 河出書房新社／刊

漱石と漱石の作品を6つのテーマから読み解き、より深く読むための基礎知識や歴史的背景について解説しています。巻末には「注」のページがあり、より詳しく解説されています。



『漱石の漢詩』
和田利男／著 文藝春秋／刊

少年時代から漢籍に親しみ、漢文学の道に進むことも考えていた漱石の漢詩を研究し、唐代の漢詩人の影響を考察していきます。巻末に「漱石漢詩参考文献目録」も掲載されています。



《上でご紹介した以外にも漱石関連の本があります》

図書館のホームページや館内の検索機（OPAC）で著者名やキーワード、件名に「夏目漱石」と入力して検索するとその他の資料も検索することができます。著者名では漱石の他の作品や全集を、キーワードや件名では解説書などを検索することができます。

